



船舶事故分析集

小型船舶の衝突事故防止に向けて

—AIS を活用しましょう—

1. はじめに	1
2. 発生状況	2
3. 死亡・行方不明者が発生した船舶間の衝突事故の事例	3
コラム	6
4. AIS機器の効果に関するアンケート結果	7
5. まとめ	9

1. はじめに

運輸安全委員会が発足した平成 20 (2008) 年から令和 2 (2020)年までに、死亡者、行方不明者が発生した船舶間の衝突事故 (以下「死亡・行方不明衝突事故」という。) を調査し、事故調査報告書を公表した事故は 104 件 (事故関係船舶 208 隻) あり、死亡・行方不明衝突事故による死亡者は 127 人、行方不明者は 38 人で、合計 165 人となっています。

また、死亡・行方不明衝突事故に関係した船舶を船種別にみると、漁船が 95 隻 (45.7%)、プレジャーボートが 35 隻 (16.8%)、貨物船が 34 隻 (16.3%) などとなっています。(図 1 参照)

さらに、死亡・行方不明衝突事故に関係した船舶を総トン数別にみると、小型船舶 (20 トン未満) が 158 隻 (76.0%) を占めています。(図 2 参照)

そこで、本ダイジェストでは、小型船舶をはじめとする船舶間衝突事故の防止に向けて、事故の発生状況と事故事例とともに、AIS (船舶自動識別装置) の効果等を調査したアンケート結果を紹介し、事故防止に向けたポイントについてまとめることとしました。

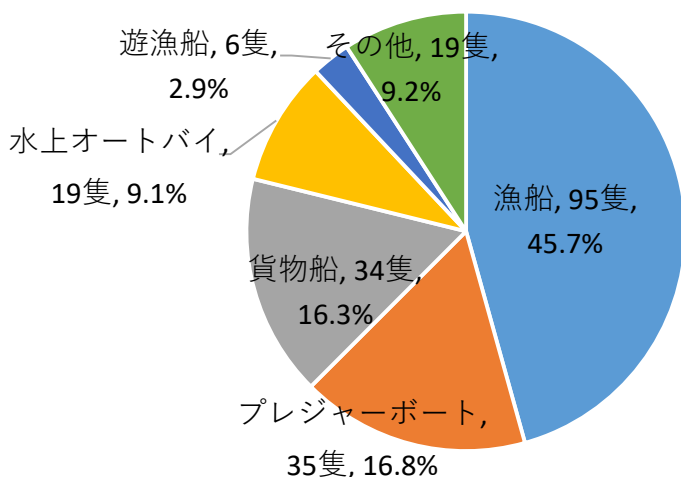


図 1 死亡・行方不明衝突事故に関係した船舶における船種別の発生隻数

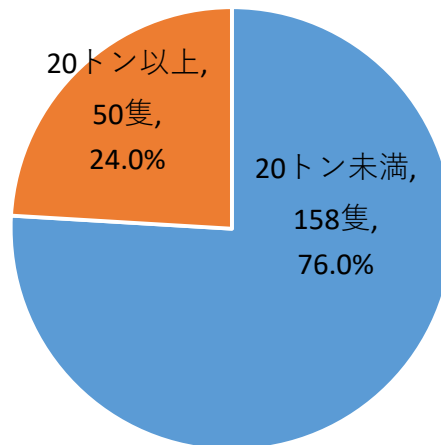


図 2 死亡・行方不明衝突事故に関係した船舶における総トン数別の発生隻数